

## 「(香港中文大学サマープログラム) 参加報告書」

京都大学総合人間学部 大山翔平

今回のプログラムは私にとって、海外での初めての長期滞在でした。これまで海外に留学したいと思いつつも、なかなかその一歩を踏み出せなかった私に、このような機会を与えて下さった関係者の方にまず深く感謝申し上げます。今回の体験を通して非常に多くのことを学びました。香港という複雑な歴史を持つ地で、これまで出会ったことのないような文化や価値観に触れることができました。

まず香港の地で出会った「人」について述べたいと思います。香港到着初日は、バスの中でいきなり中国の洗礼を受けました。まだ荷物を積んでいる最中なのにトップスピードで走り出す運転手、次のバス停がどこだかもアナウンスされない車内に戸惑いと驚きを感じたものです。サービスという面に関して、中国では、日本のようにお客様第一という考えではなく、あくまでも客にしてあげているという概念が強く残っているようです。どちらかといとは別に言いませんが、中国で商売をやっていくうえで、中国の文化やアイデンティティを深く勉強する必要性を強く感じました。

香港中文大学では日本人を始め、多くの留学生と出会い、色々な刺激を受けました。皆母国語、英語は当たり前でさらに中国語を学びに来ているといった学生がほとんどで、英語もそれほどままならない私の未熟さを痛感することとなりました。今までただ漠然と勉強してきた外国語ですが、今回のプログラムを通して、外国語で自分の考えを伝えられるようになりたいという思いが非常に強くなりました。今後はこのモチベーションをもとに更なる勉強に励みたいと思います。今回のプログラムは日本人が多く、それに助けられた部分が多々ありました。次の機会では、できれば日本人がほとんどいない環境にチャレンジしたいと思います。

3週間という非常に短い期間ではありましたが、多くの人に支えられ、多くの思い出を作ることができました。日本にいるときには分からなかった留学生の気持ちというものをお自身、身をもって経験することができました。留学生は皆異文化の土地で多くの不安を抱えています。京都大学にも多くの留学生がいます。これまで私はもしかしたら留学生を傷つけるような冷たい態度をとっていたかもしれません。留学した国が好きになるかどうかはそこで出会った人の影響を強く受けます。私も今回出会った香港の人々のおかげで、香港が好きになりました。多くの外国人に日本を好きになってもらえるように、今後努力したいと思います。